

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『学校大好き このまち大好き 杉田っ子』
 【知】自ら考え、意欲的に学び続ける子どもを育てます。
 【徳】自分を大切にし、相手の気持ちを考えることができる子どもを育てます。
 【体】体づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる子どもを育てます。
 【公】横浜や杉田を誇りに思い、地域や社会と共に歩む子どもを育てます。
 【関】自分を見つめ、自ら未来をひらこうとする子どもを育てます。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

◎「自分づくり」に関する力

具体化した資質・能力

- ・自分で考える力
- ・向上心
- ・相手意識

中期取組目標

○信頼関係をすべての教育活動の基盤とし、子どもが安心・安全で過ごし、「まち」とともに歩む学校を目指します。
 ・生活科・杉田の時間を学級経営の核とし、子どもが学ぶ楽しさを実感でき、表現力を大切にし学力の向上を図ります。
 ・一人ひとりの思いや願いを大切にし、また、自信をもって行動できるようにし、子どもの自尊感情を育みます。
 (特別支援教育、国際教室の運営などを個のニーズに合わせて行います。児童理解も丁寧に取り組みます。)
 ・基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに健康な日々を送れるようにします。
 ・豊かな体験と人とのかかわりを通して、「まち」とともに生きる子どもを育てます。

学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|--|
| 授業改善 | ①重点研テーマを「意欲的に学び、ともに高めあう子どもの育成」とし、国語科を授業改善の核とし、音量掲示、話型指導、家庭学習の体系化に努め、言葉を通して人や物とかかわる力、表現する力を育てる。②話す必然性のある活動を取り入れ、思いや考えを伝えたり聞いたりできるようにする。 |
| 担当 | 児童学習部会 |

学力向上に関わる本校の状況

ここ数年学状況調査を行っていないが、全体的な傾向は大きく変化はないと考えているため、横浜市との比較で記した。
 (1) 学力の概要と要因の分析
 全体的な学力の状況は、学年・教科によってばらつきはあるものの、横浜市の平均と同程度と言え、また、全体的に、横浜市の平均と比べての学力は上がってきている。
 それは、「主体的・対話的で深い学び」を目指して、授業改善と教育課程の編成に取り組んできたことや、体験的な活動を通して問題解決を図る中で、自分なりの表現方法を相手に伝える力を高める学習過程を重視してきた成果だと考えられる。
 今年度は、「意欲的に学び、ともに高めあう子どもの育成」を目指してさらなる授業改善・教育課程の編成に取り組む。
 (2) 教科学習の状況
 ○国語科：全体的に市の平均値と同程度である。基礎的な力の定着率が比較的高い。
 ○社会科：全体的に市の平均値を若干上回っている。特に、「知識・理解」等の基礎的な力の定着が見られる。
 ○算数科：全体的に市の平均値と同程度である。特に「技能」では比較的高い得点が得られた。
 ○理科：全体的に市の平均値を若干下回っている。「技能」にその原因が見られる。
 (3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)
 4教科共に基礎力が定着している。体験的な学習を重視したり、基礎的な問題解決学習を繰り返すことにより力を入れた成果だと考えている。また、学習意識では「杉田の時間」で学ぶことが好き」と答えた児童が市の平均よりかなり高く、自らの課題に主体的に取り組む中で、基礎力がしっかりと身についたと考えられる。
 生活意識が上がっているが、これは、授業が分かったと考えている児童が増えていることと、家庭学習の時間が増えていることと相関関係があると考えられる。また、自尊感情意識に対する質問では、市平均を若干上回る傾向があった。

今年度の目標

①重点研テーマを「意欲的に学び、ともに高めあう子どもの育成」と設定し、国語科の授業改善を核にす、言語環境の充実に努め、言葉を通して人とかかわる力、自らを表現する力を育てる。
 ②子ども同士の話し合い活動を多く取り入れ、自分の思いや考えを相手に伝えることができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業を伴う研究会を開催し、学年で一本の授業を行う。 ・主体的、対話的で深い学びにするために、児童が取り組みたいと思えるような言語活動を取り入れる。また、そのために研修を行い、言語活動の種類を増やす。 ・朝モジュールを活用し、国語や算数の定着を図るための時間とする。 ・家庭学習において、その定着に向けて、全校で統一した形式にして、児童が迷いなく取り組めるようにする。そのため、各学年でどのような形式のものにするか今一度検証し、学期ごとに見直す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業を伴う研究会を開催し、学年で一本の授業を行い、仮説に対する検証を行う。そのことを踏まえて来年度の方向性を確認する。 ・活用した朝モジュールの足跡カリキュラムを作成し、次年度以降に生かせるようにする。また、YICAのためのモジュールをどこまで活用するか再検討する。 ・家庭学習において、全校で統一した形式にするため、何をどこまで全校で統一し、どこまでを学年に任せるか検討する。 |

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|---|
| 道徳教育 | ①挨拶を日常から全校で取り組み、よい姿を周知し、自ら挨拶できる児童を増やす。地域の方への挨拶もできるようにする。②人権を大切に、「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活が過ごせるように取り組む。③自己有用感が高まるように横浜プログラムの理念を取り入れた学習を展開する。 |
| 担当 | 道徳部 |

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心にかかわる児童の実態
 目標が明確なことに対しては前向きに取り組むことができる。特に、生活科・杉田の時間では自ら課題を見つけ取り組もうとする姿勢が育ってきている。しかし、まだまだ自分に自信がもてず、自己表現を苦とする児童が多い。そのため、相手にうまく気持ちが伝わらずぶつかってしまうこともある。互いのよさを認め合うことで、自己有用感をもち、さらに自尊感情を高めていく必要がある。
 (2)これまでの学校の取組状況
 人権を大切に、「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活が過ごせるように人権週間に、「友情・信頼」の項目から授業を行う。また、自己有用感が高まるように各教科で横浜プログラムの理念を取り入れた学習活動を展開してきている。

今年度の目標

○様々な人と関わりながら他を思いやる心の大切さを価値づける
 ○異学年交流の機会を増やし、一人ひとりの自尊感情を高め、よりよい人間関係を築く。

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○全学級の道徳の授業を家庭・地域に年一回以上公開する。 ○気持ちよく1日が始められるように校門で、教室で大きな声での挨拶で迎える。 ○生活科、杉田の時間などを通して、幼稚園・保育園や地域の方々などとの関わりを深め、実践活動を通して自分の生活を見つめ直し、よりよい生活を築こうとする態度を養う。 ○集会や教科学習、特別活動等の中で縦割り活動などの異学年活動を充実させる。また、「児童会活動」「クラブ活動」「わくわくクラブ発表会」等の「異年齢集団活動」をより自主的、意識的に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○日頃の児童との関わりやY-Pアセスメントをもとにした児童の実態把握を行い、よりよい人間関係作りを意識した学級経営を行う。 ○研修会などで配慮を要する子どもへの共通理解を図る。 |

健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|--|
| 健康教育 | ①縄跳び集会を開催する。②短縄を年間を通し取り組む。③体育科単元計画の作成をする。④体育科年間計画の作成し、各学年の学習での指導事項を明確にする。⑤体育時の約束(教師版・児童版)作成する。⑥体育備品の管理点検を毎月行う。 |
| 担当 | 体育部 |

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
 ○横浜市体力・運動能力調査では、
 ○健康診断では、
 ○横浜市学力・学習状況調査の生活・学習調査では、
 (2)これまでの学校の取組状況
 ○体育科では、仲間との関わりを大切に授業づくりを実施してきた。
 ○運動会や縄跳び集会などを、運動委員会が中心になって運営してきた。

今年度の目標

○休み時間に校庭で遊ぶ児童の数を増やし、スポーツを通してのコミュニケーションの促進を図る。
 ○児童が体育授業に関心をもち、安全に運動する環境を整えられるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○運動することの大切さについて考えるために、運動委員会を中心に「外で遊ぼうキャンペーン」を実施する。 ○安全に体育授業を行ったり、児童が安心して運動に取り組めるように体育倉庫などを整え、体育部職員が毎月備品の管理・点検を欠かさず行えるようなチェック形式を「GoogleForm」にて共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○楽しみながら自分の成長が実感できるように、運動委員会が主体となり、縄跳び集会を計画・実施する。 |